

平成 29 年度 横瀬川ダムモニタリング委員会の審議概要について

平成 29 年度 横瀬川ダムモニタリング委員会を下記のとおり開催しましたので、その審議概要を公表いたします。

記

開催日 平成 30 年 2 月 21 日(水)

会場 四万十市社会福祉センター

○目的

横瀬川ダム建設事業による環境への影響検討結果に基づく環境保全措置の具体的手法の実施、モニタリング調査等に関して事業者へ指導・助言を行うことを目的として開催しております。

○審議概要

(1) 水質（濁水関係調査）

- ◆工事前と工事中（本体着手前・着手後）とを比較して、明らかに工事中の方が負荷量は高くなっているが、工事中の本体着手前と着手後を比較して違いはみられないと言える。
- ◆通常の水質汚濁防止法の排水基準は、放流先で 10 倍に薄められることを想定して環境基準の 10 倍に設定されている。今回の濁水処理プラントの目標は放流先の目標濁度と同じ濁度に設定して処理をしており、非常に高い目標で運転管理がされている。
- ◆pH の上昇は工事と河床藻類による場合があり、後者では光合成により pH と DO が連動して一日周期で変化するため、DO の同時測定を検討してはどうか。
- ◆工事により水質変化が予想される場合は、今回の経験を踏まえて適切な対応をしていただきたい。

(2) 生態系典型性：アユを指標

- ◆現況の横瀬川において天然由来のアユの生活史が維持されている要因が重要で、それにアプローチすれば、ダム工事中の影響を回避・軽減するための具体策も提案できる。
- ◆ダム供用後の維持流量の放水による瀬切れの解消など、環境改善効果を定量的に評価することも必要。
- ◆対策や配慮事項をおこなうための評価基準については、「アユが問題なく生活し、さらに産卵できている」としてはどうか。

(3) 植物の重要種 ・ 移植した植物 ・ 水田生の植物 ・ 試験湿地の生物相

- ◆創出する湿地には意図的な生物種の誘導と管理が大切で、移植重要種のトノサマガエルを支えるには餌になるトンボを増やすべき。マルタンヤンマの産卵や水質浄化のために抽水植物を植えるとよい。

(4) 生態系上位性：猛禽類（オオタカを指標）

- ◆一部の観測箇所の繁殖状況の評価について、近年、ダムや道路近くで営巣する例もみられる点などを踏まえた標記に修正すること。
- ◆影響の有無について、客観的で適切な表現となるよう委員の助言を受け再検討する。

(5) 動物の重要種：ヤイロチョウ

- ◆四国の森林は 6 割が人工林で生物多様性に欠けるなかではあるが、ヤイロチョウの森としてアピールしていただければいいのではないか。
- ◆オシドリの餌であるシイカシ林が多い。ダム完成後にオシドリやヤイロチョウが地域の人に親しんでいただけるように観察会などを検討しては。

(6) 騒音・振動（工用車両を対象）

- ◆工事中は引き続き工用車両による騒音・振動に留意し、工事を進めること。